

「2の1 The ざっ草カルタ作りプロジェクト」学びの履歴

※学級通信から本プロジェクト活動に関する文章を抜粋した。

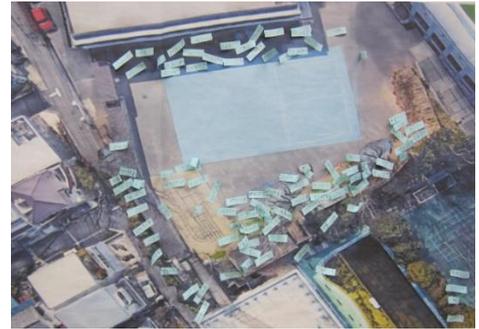
※赤文字はメディアセンターと関連する内容である。

2020年7月。1年生で使っていた植木鉢に育てたことのない植物が生えていたところから「どうして植物が生えているのか?」「この植物は何なのか?」「雑草なのか?」「そもそも雑草とは何だ?」という子どもたちの問題意識から活動が始まりました。

早速、図鑑やインターネットを使って、雑草を調べてきた子どもがいました。「春の七草も雑草なんだよ。」「雑草も食べられるものがあるよ。」「でも、毒のある雑草もあるから気を付けて。」そんな話を聞いたら、外に行かない手はありません。子どもたちの心は、探検気分がいっぱいでした。たしか外に出る前に校舎の敷地内にどれくらいの雑草が生えているのか予想させたところ、子どもたちの回答は「数十種類くらい」でした。しかし、その後の調査結果は、子どもたちの予想を見事に裏切ってくれたわけです。

子どもたちが、調査した場所は、①上校庭②下校庭③正門付近④ピロティー付近⑤幼稚園⑥校舎屋上 の6つです。これらは、すべて自分たちで計画を立てました。調査にかけた期間は、およそ2か月。発見した雑草が何であるか調べるために、**本校メディアセンターと連携し、司書教諭の宮崎先生に小石川図書館、東京学芸大学附属小金井小学校図書室、東京学芸大学附属世田谷小学校図書室等から雑草に関する図鑑をかき集めてもらいました。**さらに、校内のipadもかき集め、アプリ「ハナノナ」や「Picture This」をインストールし、人工知能の力を借りました。特に、後者の活用については、当時「コルクちゃん映画作りプロジェクト」も並行していたため、タブレット操作の技能が上達しつつあった子どもたちは、水を得た魚のごとく、巧みにタブレットを使って調べていました。しかし、良いことばかりではありません。「先生、外では Wi-Fi の電波が弱くて、通信が途絶えました!」「教室で一斉に『Picture This』を使うとバンクして、AI が判断してくれません!」など、様々な困難がありました。その度にどうしたら ICT 環境を改善できるのか、子ども、担任共々、試行錯誤の連続だったのを記憶しています。しかし、そこにこそ子どもの問題解決能力を育むチャンスがありました。「外に調査に行くグループと教室で調べるグループの2つに分けて、Wi-Fi の混線を避けたらどうですか?」「外で Wi-Fi がつながらなければ、『カメラ』の機能で撮ったものを教室に戻ってから『Picture This』に転送して調べたらどうですか?」など、色々な解決方法が子どもたちから提案されました。

10月。子どもたちは、発見した雑草の名前を付箋に書き出しました。そして、『Google Earth』で取り込んだ校舎の航空写真に貼っていきました(右記の5枚の写真を参照のこと)。みるみるうちに増えていく付箋の数に子どもたちの好奇心も高まっていきました。「どうして、コンクリートの裂け目からも雑草は育つのだろうか?」「どうして、屋上に雑草が生えいているのか?」「どうして、オオアレチグサは校舎のいたるところに生えいているのか?」等、子どもたちの疑問の内容もより深まっていきました。



「上校庭」の雑草散布図



「下校庭」の雑草散布図



「正門〜ピロティー」の雑草散布図



「幼稚園」の雑草散布図



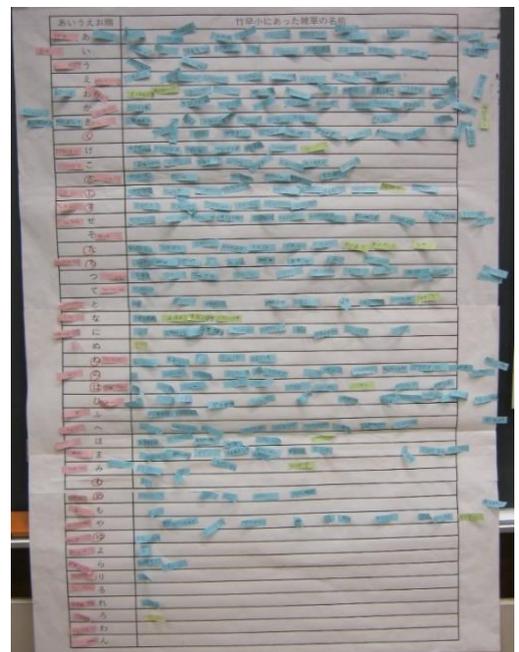
「屋上」の雑草散布図

竹早小では、子どもたちの学習が、様々な教科や領域と有機的に関連するよう教科横断的なカリキュラムデザインに取り組んでいます。このプロジェクトも様々な教科とのコラボレーションに基づいていました。例えば、以下の内容が挙げられます。

- 国語「たんぽぽのちえ」で学んだ「たんぽぽの知恵」を「雑草の知恵」に転用することで、どうして雑草が逞しく生きることができののかという問題解決の糸口としました。
- 国語「かんさつ名人になろう」の目的は、「丁寧に観察して記録すること」でした。そこで、対象を雑草に設定し、長期間に渡って継続的な観察に取り組みました。
- 国語「ことばあそびをしよう」では、古くから日本に伝わる地域のカルタ(ここでは、上毛カルタでした。)を紹介したことをきっかけに、雑草研究の成果物をカルタとしてまとめることに決めました。
- 算数「はこの形をしらべよう」で学んだ立体の展開図を生かして、「2の1 The 雑草カルタ」のカルタ箱をデザインしました。

このようなカリキュラムデザインによって、子どもにとって必要感ある学習材、必然性ある学習展開を組んでいくことができたと考えます。

さて、3学期に入り、次は雑草の名前が書かれた付箋を50音表に整理しました(右記の写真を参照のこと)。子どもたちの予想を上回るおよそ100近くの雑草に整理することができました(しかし、中には自然発生した雑草ではなく、人工的に植えられた植物も含まれています。ただ、その見分けは非常に難しく、今回は後者も「雑草」という大括りなまとまりの中に入れました)。すると、子どもたちから「『ソ』や『ル』から始まる雑草は、竹早の敷地にないよ!」「そもそも『ン』から始まる雑草は、世界中どこを探してもないと思う!」等の意見が出されました。初めからタブレットを使って「ソ」「ル」「ン」から始まる雑草を探すことは容易いことです。しかし、実際に自分たちの足で探したからこそ、経験則に基づいた確かな意見が生まれるのだと思います。今後、教育現場で一人一台タブレットあるいはパソコンが子どもたちに配られるというGIGA(ギガ)スクール構想が実現されます。私たち大人は、ICT 端末を使って調べれば、大した労力をかけず、なんらかの答えを見つけることのできる功罪を考慮し、その使いどころをおさえなくてはいけないと思っています。

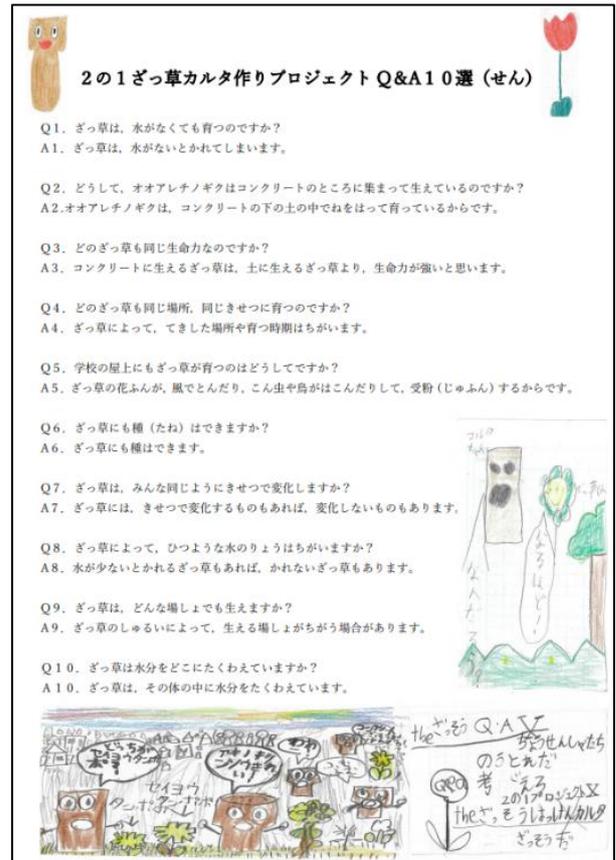


その後、50音を34人で分担し、それぞれの頭文字から始まる雑草のカルタ作りに取り組みました。カルタの構造は、自由研究でオリジナルカルタを作ってきたりこちゃんのものや雑草カルタを先行して作ってきたはるこちゃんのを参考にしました。また、おきくんが「それぞれの雑草について、ばらばらな情報をカルタに載せると、読み手が混乱するから、共通した情報を載せようよ。」と発言したことをきっかけに、共通の情報項目をみんなで決めました。右記の写真は、ヘビイチゴのカルタです。「地球マーク」は場所、「花マーク」は開花時期、「スプーン&フォークマーク」は食べられるかどうか、「物差しマーク」は背丈、「虫眼鏡マーク」は豆知識を表しています。マークを使うというのも、子どもたちが考えたユニバーサルデザインです。さらに、子どもたちがこの調査の中で気付いたことや分かったことを Q & A にまとめた「2の1 The ざっ草カルタ作



りプロジェクト Q&A10選」を特典として雑草カルタ箱に入れて
います。合わせてご覧ください。

以上、「2の1 The 雑草カルタ作りプロジェクト」をダイジェスト
でお伝えしましたが、本紙では伝えきれない様々なストーリー
の連続性のもと、このプロジェクトを完遂することができました。個
性豊かな2年1組の子どもたちの探究心と向上心に私も感化
され、共にプロジェクト活動を愉しむことができました。結果、2
年間という長くて短い間の素敵な思い出を創り出すことができ
ました。保護者の皆様におかれましても2年間にわたる学級経
営にご理解、ご協力を頂きましたこと誠に感謝申し上げます。



2の1 雑草カルタ作りプロジェクト Q&A10選 (せん)

Q1. ざっ草は、水がなくても育つのですか？
A1. ざっ草は、水がないとかれてしまいます。

Q2. どうして、オオアレチノギタはコンクリートのところに集まって生えているのですか？
A2. オオアレチノギタは、コンクリートの下の土の中でねをはって育っているからです。

Q3. どのざっ草も同じ生命力なのですか？
A3. コンクリートに生えるざっ草は、土に生えるざっ草より、生命力が強いと思います。

Q4. どのざっ草も同じ場所、同じきせつに育つのですか？
A4. ざっ草によって、てきた場所や育つ時期はちがいます。

Q5. 学校の屋上にもざっ草が育つのはどうしてですか？
A5. ざっ草の花ふんが、風でとんだり、こん虫や鳥がはこんだりして、受粉(じゅふん)するからです。

Q6. ざっ草にも種(たね)はできますか？
A6. ざっ草にも種はできます。

Q7. ざっ草は、みんな同じようにきせつで変化しますか？
A7. ざっ草には、きせつで変化するものもあれば、変化しないものもあります。

Q8. ざっ草によって、ひつような水のりようはちがいますか？
A8. 水が少ないとかれるざっ草もあれば、かれないざっ草もあります。

Q9. ざっ草は、どんな場しでも生えますか？
A9. ざっ草のしゆるいによって、生える場しよがちがう場合があります。

Q10. ざっ草は水分をどこにたくわえていますか？
A10. ざっ草は、その体の中に水分をたくわえています。



the Q&A せん
のうじな
2019年
the ぞうじ
ぞうじ